



Title	[試論] ミア・コウトのポルトガル語彙
Author(s)	鳥越, 慎太郎
Citation	ブラジル研究. 2026, 20, p. 71-84
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/106122
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

[試論] ミア・コウトのポルトガル語語彙

鳥越 慎太郎

1. はじめに

本稿ではモザンビークの現代作家ミア・コウト (Mia Couto) の作品を言語面から分析する。ミア・コウトの作品の特徴としてはポルトガル語の語彙の創作が知られており、本稿では複数の作品を分析してどのような創作語彙がみられるのかを概略する。

本稿は試論であり、ミア・コウトの作品全般の精緻な文学的分析や言語使用などは後発の研究に委ねたい。

1.1. ミア・コウトについて

ミア・コウトは1955年、ポルトガル出身のフェルナンド・レイテ・コウトの子としてモザンビーク第二の都市ベイレ市に生まれた。1972年に首都ロウレンソ・マルケス (現在のマプート) に移り、医学を学んだ後に作家活動とジャーナリズムに転じ、モザンビークの独立後に政府系通信社の *Agência de Informação de Moçambique (AIM)* のディレクターを務めた後、同じく政府系の *Notícias* 紙へと転職した。1985年以降はエドゥアルド・モンドラーネ大学で生物学と生態学を学び、作家活動と並行して環境保護活動に従事している (Mia Couto Official Website)。

現在、ミア・コウトはポルトガル語圏アフリカを代表する作家である。2007年にアフリカ人として初のラテン連合文学賞を、2013年にポルトガル語圏で最も重要な文学賞であるカモンイス賞、2014年にはノーベル文学賞に次ぐ権威があるとされるノイシュタット国際文学賞、2025年にはPEN/ナボコフ賞国際文学賞を受賞している (コウト 2025)。ミア・コウトの作品の特徴については文学研究に委ねたいが、ラテンアメリカのマジックリアリズムに影響を受けているとされ、人間と自然との関係の描写や、モザンビーク内戦時の社会を描写する作品が特徴的である。また、ポルトガル語とモザンビークの言葉の語彙を合わせるなどして新語を創作することでも知られている (cf. Nunes 2003, Timbane 2018, etc.)。

1.2. FRELIMO 党员として

ミアの父フェルナンドもジャーナリストであり、ミアが誕生する2年前にサラザール独裁から逃れてモザンビークに移住した。したがって植民地支配者側のポルトガル人とは異なる境遇であった。幼少期に同化民¹の子どもと遊ぶなか、成長するにつれて白人と黒人の間にある不公平について気づくことで、モザンビーク人として不公平と戦うことを決意し、モザンビーク解放戦線 (*Frente de Libertação de Moçambique: FRELIMO*) に参加した (BBC Brazil 2024)。モザンビークの独立後は事実上 FRELIMO 政権の機関紙として機能している先述の *Notícias* 紙のディレクターなどの要職を経つつも、次第に FRELIMO の理想とはかけ離れた実態に幻滅し、1986年のサモラ・マシエル大統領の事故死を機に FRELIMO を脱退している (ibid)²。その後は *Savana* 紙など FRELIMO 政権に批判的な独立系メディアも含めてコラムを投稿し (Couto, 2009)、FRELIMO に対しては是々非々の評価をしている。

1.3. ベイラ市出身であること

ミア・コウトが首都マプト市ではなくベイラ市の出身であることも着目に値する。ベイラ市は中部ソファラ州の州都であり、モザンビーク第二の経

済規模の都市である³。ポルトガル到達前はソファアラ王国の中心地であり、ポルトガルの到達後はモザンビーク島に先駆けて補給地が設置された。現在はジンバブエなどの内陸国の実質的な港として、港湾業を中心に繁栄している (金七 2003)。

植民地時代のベイラ市は極めて保守的であり、黒人と白人の分断が強かったとされる (Chabal 2003)。そのような環境下で、ミア・コウトは先述のとおり幼少期から黒人の子どもたちと遊ぶ中でモザンビーク人としてのアイデンティティを確立した。

ソファアラ州では元反政府ゲリラ組織で1992年の内戦終結以降長らく最大野党であるモザンビーク抵抗運動 (*Resistência Nacional Moçambicana: RENAMO*) が本拠地を構えていたこともあり、ベイラ市は北部のナンブラ州都ナンブラ市、ザンベジア州都ケリマネ市と並んで RENAMO への支持が高かった (cf. 鳥越 2024)。さらにそれ以前、解放運動時代にベイラ市は FRELIMO の前身のひとつである解放組織モザンビーク民族民主連合 (*União Democrática Nacional de Moçambique: UDENAMO*) の拠点であった。解放運動の過程で FRELIMO 議長のエドゥアルド・モンドラーネが暗殺された後に、旧 UDENAMO のリーダーのウリア・シマンゴ副議長が内部闘争でサモラ・マシエルら南部出身者の勢力に追放され処刑されると、独立後には旧 UDENAMO のメンバーが RENAMO に合流した。後に RENAMO は地元ベイラで高い支持を得ることになる (cf. 船田 2007, 水谷 2017)。

また、2009 年以降は RENAMO から分裂したモザンビーク民主運動 (*Movimento Democrático de Moçambique: MDM*) が支持を得ている。MDM の創始者であるデイヴィス・シマンゴは、先述のウリア・シマンゴの子息であり、2003 年に市民からの圧倒的支持を受けてベイラ市長に選出され、2021 年に死去するまで 4 期 18 年務めた。

現代のベイラは植民地時代に引き続き第二の都市であり続けているが、内戦で荒廃したのちに長らく RENAMO の影響下にあることから、首都マプト市と比較すると近代化が大きく遅れている。また、マプト市及びマプー

ト州から、ガザ州、イニャンバネ州の南部 3 州において国道 1 号線が整備されて人やモノの往来が盛んで経済文化圏を構築しているのに対し、ソファアラ州と南に隣接するイニャンバネ州との間は未開であり、唯一のアクセス手段である国道 1 号線の整備状態が悪く、人やモノの流れが寸断されている。

以上のように、ポルトガル系でありながら、また、反 FRELIMO 中枢の支持が厚いペイラ市の出身でありながらのモザンビーク独立時の FRELIMO 党員としての活動と、独立以降内戦期の FRELIMO 脱退などの複雑な経緯は、ミア・コウトの作風だけでなく言語使用にも影響を与えている可能性が考えられる。

1.4 ミア・コウト作品の特徴

先述のとおり、ミア・コウトの作品の特徴として、ポルトガル語の新語の創作と南米文学からの影響を受けたマジックリアリズムの手法が挙げられる。本稿では言語面の特徴について扱うため、文学的な理論は文学研究に委ねたい。

ミア・コウトの新語創作は *brinciação* と呼ばれ、違和感をもって読者の目を引くことを意図している (Nunes 2003)。Nunes (ibid) によると、接頭辞を用いて新しい語彙を作ったり、あるいは既存の語彙の接頭辞を入れ替えることが特徴的である。同研究ではミア・コウトの 1997 年から 2001 年刊行の 4 作品を分析したところ、124 の接頭辞造語が確認された。特に *desconseguir* や *insonolência* など *des-* と *in-* を使った否定の表現が圧倒的に多いほか、*rerodar*、*retorturar* など *re-* を用いた反復の表現や、*transfronteiriço*⁴、*transfazer* など *trans-* を使った文脈を固定する表現も見受けられる。品詞では動詞 (45.2%)、名詞 (29%)、形容詞 (25.8%) の順に多かった。また、Timbane (2018) によると、*bichar* (列を作る)、*esquinar* (街角で人を待つ)、*estilar* (展示する) など、モザンビーク特有のポルトガル語語彙 (cf. Gonçalves 2013) や南部のシャンガナ語を中心としたバントゥー語語彙を積極的に用いることも特徴的である。

1.5. 本稿の目的

本稿はミア・コウトの作品を言語面から分析していくパイロット・スタディであり、今後日本国内でも発展していくと期待されるミア・コウトの文学研究や言語研究に貢献することを目的とする。研究設問としては、ミア・コウト作品にみられる創作語彙はどのような規模で、どのようなものがあるのか、先行研究よりもより多くの作品の分析を通じて検証する。

2. 方法

本研究ではミア・コウトの作品をコーパス化し、分析することでその客観的な姿に迫る。分析に用いる作品は表に示す 11 点である。これらは現時点で現時点で電子ファイルで入手できるものを無作為に選んだものである。

表 1 分析した作品のプロファイル

タイトル	発行年	ジャンル	語数	備考
Vozes Anoitecidas	1986	短編集	21,320	
Cada Homen é Uma Raça	1990	短編集	29,527	
Terra Sonâmbula	1992	長編	57,592	
Contos do Nascer da Terra	1997	短編集	11,969	
Antes de Nascer o Mundo (Jesusalém)	2009	長編	53,532	
E se Obama Fosse Africano?	2009	クロニカ	41,892	
Confissão da Leoa	2012	長編	44,189	
Vagas e Lumes	2014	長編 (詩集?)	7,462	
Mulheres de Cinzas	2015	長編	68,218	ガザ州が舞台
Sombras da Água	2016	短編集	71,517	ガザ州が舞台
A Cegueira do Rio	2024	長編	44,687	

作品は PDF ファイル形式から txt 形式に変換してプレーンテキストファイ

ルとする。これに品詞タグづけプログラムの *TreeTagger*⁵で見出し語情報を付与し、コンコーダンスラーの *AntConc*⁶で見出し語が不明 (“unknown”) の語彙を抽出して、*Microsoft Excel* で整理して語彙リストを作成し、確認していく。この際、ノイズや西欧言語からの借用語、KWIC 機能でコンコーダンスライン (文脈) を確認しながら明らかにバントゥー語の語彙であるものは除外していく。創作語彙の判定には、モザンビークのポルトガル語語彙も豊富にカバーしている *Porto Editora* のオンライン辞典 (アプリ版) を参照した。

3. 結果

11 作品のコーパスデータから、見出し語不明の語彙は全体で異なり語数 1,434 語、頻度 2,447 例が抽出された。このうち、明確にアフリカ諸語の語彙であるものやモザンビークのポルトガル語の語彙を除くと異なり語数 1023 語、頻度 1,519 例となった。

特徴としては、既存の動詞語彙などの名詞化や形容詞化、名詞や形容詞語彙の動詞化、複数語彙の統合、2 語以上をハイフンを使うなどしてそのまま繋げた連語、Nunes (2003) で挙げられている接頭辞の付与や入れ替えによる語彙が見られた。内訳を以下の表 2 にまとめる。

表 2 見出し語不明語彙の内訳

	異なり語数	頻度
名詞化及び形容詞化	329	454
動詞化	225	290
複数語彙の統合	82	104
連語	138	150
接頭辞の付与	146	175
-áme 形の直説法現在	103	346
合計	1,040	1,543

以上の語彙の多くは 1 作品限定の表現であり頻度も少ないが、一方で、一部は複数作品にまたがって出現する表現もある。すなわち、後者が真の意味でのミア・コウトの特徴語彙に近いものであると考えられる。

まずは既存の動詞語彙や形容詞語彙を名詞化したもの、動詞語彙や名詞語彙を形容詞化したものを見ていく。ここでは結果として出来上がっている語彙が名詞とも形容詞とも判断できるものがあるため、ひとつにまとめているが、厳密な分類は今後の課題としたい。以下、特徴的な 20 語を取り上げる。

表 3 名詞化及び形容詞化された語彙の例

語彙	通常の表現	頻度	語彙	通常の表現	頻度
acompanhia	acompanhamento	4	fugista		4
acontecências	acontecimento	1	incendiador		1
aprendedor	aprendente	2	jogadeiros	jogador	1
bailação	baile	1	lojeiro		1
cadeireiro		1	malfazedor	malfeitor	1
desconfios	desconfiança	2	nascência	nascimento	1
desequilibrista		2	pintador	pintor	1
despedaço		1	satisfeição	satisfação	2
dormitoso		10	sonhadeiro	sonhador	1
errância	erro	2	teatroso		2

特徴としては名詞化されていない動詞語彙などに接尾辞を付与しての名詞化や、通常と異なる接尾辞による名詞化が見られた。前者は *cadeiro* に関する形容詞の *cadereiro* や *teatro* に関する形容詞の *teatroso* など、後者は動詞の *acompanhar* を名詞化した *acompanhia* (通常は *acompanhamento* など) や *aprender* を名詞化した *aprendedor* (通常は *aprendente*) などが見られた。ただし、分類

の仕方が定まらずにこの語彙群に区分した語彙も多いため、さらなる考察と分類は今後の課題である。

続けて、名詞語彙や形容詞語彙を動詞化したもの、あるいは既存の別の動詞語彙を異なる形で動詞化したものを見ていく。以下の表 4 にランダムで 20 語彙を取り上げる。

表 4 動詞化された語彙の例

語彙	頻度	語彙	頻度
alongar	5	gravatar	4
antiguar	2	indecidir	1
barrigar	3	meninar	4
bonitar	2	poear	5
continenciar	1	pequenaar	2
covar	8	rapidar	2
dezembrar	1	redondar	2
doidar	1	Ruar	3
entartarugar	1	sozinhar	4
familiar	2	varandear	3

特に名詞語彙からは *barriga*、*gravata*、*menina*、*rua*、*varanda* など具体的なもののから大陸 (*continente*) や暦 (*dezembro*) など、様々なものが動詞化されている点が興味深い。

以上の名詞化・形容詞化や動詞化は Gonçalves (2013) でモザンビークのポルトガル語の特徴とされており (e.g. *confusão* > *confucionar* (PE: *arranjar confusões*), *emprestar* > *empréstação* (PE: *empréstimo*)), ミア・コウトが創作した語彙なのか、もともとモザンビークで使われている語彙なのかの判断が難しい。

次に複数語彙を統合した例を見ていく。全体で異なり語数 82、頻度が 104 であったため、1 度限りの使用の語彙が多い。以下、表 5 に特徴的な 20 語彙を挙げる。

表 5 複数語彙の統合による語彙の例

語彙	頻度	語彙	頻度
abismaravilhado	1	liquidesfaz	1
acrediteista	1	luaminoso	2
administraidor	2	luminesciência	1
Anabelíssima	1	maltrimónio	1
argumentiras	1	mamíferos	1
bidiomática	1	marmulhar	2
exactamesmo	1	sonholento	1
febrilhante	1	surdimudo	1
iluminados	1	temedroso	4
lamentochão	1	vagalume	1

複数語彙の統合はミア・コウトの創作語彙の特徴と言える。例えば *exactamesmo* (*exacto* + *mesmo*) や *surdimudo* (*surdo* + *mudo*)、*temedroso* (*tremar* + *medroso*) など類似した語彙を組み合わせたものや、*acrediteista* (*acreditar* + (*a*)*teista*) など項構造をなしているもの、*administraidor* (*administrador* + *traidor*) や *argumentira* (*argumento* + *mentira*) など相反するものを組み合わせて皮肉を表現しているもの、*Anabelíssima* (*Anabela* + *belíssima*) など固有名詞に容姿や性格の形容詞を合わせたものが見られる。それぞれの頻度やレンジは高くないため、生産性が低い「作品限りの表現」と考えるのが妥当であろう。

次に連語の例を見ていく。ほとんどがハイフンで繋がれたもので、全体で異なり語数 138、頻度が 150 であったため、これもほぼ 1 度限りの使用であつ

た。以下、表 6 に特徴的な 20 語彙を挙げる。

表 6 ハイフンで繋がれた連語の例

語彙	頻度	語彙	頻度
beija-pássaros.	1	exército-fantasma	1
beira-água	1	falso-dito	1
bem-bem	1	filha-gêmea	1
bons-cumprimentos	1	filho-dentro	1
bons-sensos	1	filho-fora	1
camarada-chefe	1	guarda-nada	1
canta-encantava	1	guerra-fantasma	1
casinha-natal	1	homens-cão	1
dedo-ante-dedo	1	leões-homens	1
doce-triste	1	mal-julgar	1

例としては *bons-sensos* のような「形容詞+名詞」の関係、*exército-fantasma* のような名詞連続、*canta-encantava* のような動詞連続、*guarda-nada* のような「動詞+目的語」の関係になっているものが確認される。このような連語は自由度が高く、ミア・コウトの創作語彙かどうかの判断が難しい。例えばインターネット上や、他の大規模コーパスやウェブコーパスと対照して検証する必要がある。

続いて、Nunes (2003) でも扱われた既存語彙と異なる接頭辞を用いる例を見ていく。以下、表 7 に特徴的な 20 例を挙げる。

表 7 既存語彙と異なる接頭辞を用いる例

語彙	頻度	語彙	頻度
contracurvar	1	encarçoamento	2

desembocar	6	encaseirar	1
desconseguir	13	entrecobrir	1
desautenticar	2	entreencher	1
desbotura	2	incomparência	1
desbravar	2	infantasia	1
desexistir	2	inutensílio	1
desfrizar	2	sobreimpor	1
desnuevar	2	transaberto	1
desparadeiro	2	transnoitar	1

全体で異なり語数 146 語、頻度が 175 例であり、Nunes (2003) で挙げられている例をやや下回った。用いられている前置詞は Nunes (ibid) と同様 *des-* (56 例) が圧倒的に多く、次いで *in-* / *im-* (15 例)、*em-* / *en-* (10 例) や *entre-*、*trans-* (各 7 例)、*contra-*、*sobre-* (各 5 例) も多かった(79 語)。

また、以上の創作語集のほかに特徴的だったものとして、一人称単数の弱形目的語 *me* を後置する直説法現在形のアクセント(標記)の移動が確認された。以下の表 8 に頻度順の 20 例を挙げる。

表 8 直説法現在 1 人称単数形のアクセント位置が移動している例

語彙	頻度	語彙	頻度
chegáme	28	encontráme	6
escutáme	18	experimentáme	6
ficáme	17	matáme	6
deixáme	14	espreitáme	5
passáme	10	amarráme	4
regressáme	10	apresentáme	4
voltáme	9	ficáme	4

deitáme	8	caminháme	4
enterráme	8	combináme	4
entráme	8	deparáme	4

例えば *chegáme* では、通常であれば *chega-me* となり、*chega* の後ろから 2 番目の音節にアクセントが置かれるべきであるが、*chegáme* とハイフンが省略されながら末尾の音節にアクセントが移動している。この現象は直説法現在形以外、及び 1 人称単数以外の弱形目的語が後続する場合には見られない。また、ほとんどが *-ar* 動詞での事例であったが、*esvaíme* や *possuíme* など *-ir* 動詞における例もわずかに見られた。異なり語数 103 語、頻度が 346 例であったため、多くの例が複数回使用されていることがわかる。また、複数の作品で幅広い語彙で発生しているため、ミア・コウト作品の特徴とも理解できるが、基本的に直接話法の発話文の中で用いられているために、モザンビークの口語で発生している一般的な現象を文字化したものと考えられる。

4. 結論に替えて

本稿ではミア・コウトの創作語彙について、11 の作品をコーパス化して分析した結果、従来の少数作品を精査するアプローチ (e.g. Nunes 2003, Timbane 2018) と比べて豊富な創作語彙を抽出することができた。ただし、それでも入手できた作品が 11 作品に止まったため、分析対象の作品をさらに広げることにより正確な「ミア・コウト語彙」を把握することが可能になるだろう。

本稿における大きな課題としてポルトガルやブラジルですでにインフォーマルに使用されている可能性がある語彙とそうではない語彙のプロファイリングの難しさが挙げられる。本稿では *Porto Editora* のオンライン辞書を参照したがそれでも限界がある。そのため、今後の研究ではモザンビークのみならずポルトガル、ブラジルのできれば複数のネイティブスピーカーの協力を得て語彙を判断していくことが必要であろう。また、*TreeTagger* が *gungunhana*

(固有名詞) や *famba* (シャンガナ語で「行く」) などのアフリカ的な語彙に見出し語を付けている例が散見された。これは *TreeTagger* のポルトガル語タグづけプログラムの辞書機能が予想以上に高性能であったことを意味するが、それゆえに不明語として判定できずに拾い上げられなかった語彙も多数存在していることが考えられる。今後本格的な分析を行う際には、このように見出し語情報を正確に付与されてしまった語彙についても検討する必要がある。

¹ *assimilados* : ポルトガル語を話す、カトリックを信仰するなどの条件を満たすことで、都市圏に居住したり教育を受けたりするなどポルトガル人と同等の権利を得た現地人であるが、実際には大きな格差があったとされる。

² 本稿筆者の私見では、サモラ・マシエルのナンバー2として活躍したマルセリーノ・ドス・サントスの強硬路線を忌避したものとする。マルクス主義者のドス・サントスは内部闘争の果てに闘争相手を粛正することを厭わない強硬派であったとされる。

³ 2017年の国勢調査によると、人口規模ではナンブラ市やケリマネ市が最も多く、マブート市に次いでベイラ市は第4位である

⁴ 現在はモザンビークと南アフリカ共和国を結ぶ国際便などで日常的に用いられる語彙である。

⁵ <https://cis.uni-muenchen.de/~schmid/tools/TreeTagger/>

⁶ <https://www.laurenceanthony.net/software/antconc/>

参考文献

BBC Brazil (18, Agosto, 2024) O Poeta que Chamou a Atenção dos Lutadores pela Liberdade de Moçambique. <https://www.bbc.com/portuguese/articles/ce80110vdjlo>. (5, Fev, 2026).

Chabal, P. (2003). Mía Couto or the Art of Storytelling. *Portuguese Literary & Cultural Studies* 10, 105-129.

Couto, M. (2009). *E se Obama Fosse Africano?* Lisboa: Caminho.

Gonçalves, P. (2013). O Português em África. Em E. B. P. Raposo; M. F. Bacelar do Nascimento.; M. A. C. da Mota; L. Segura; &. A. Mendes (eds). *Gramática do Português I*, pp.157-178. Lisboa: Fundação Calouste Gulbenkian.

-
- Mia Couto Official Website. <https://www.miacouto.org/biografia-bibliografia-e-premiacoes/>
- Nunes, A. M. B. (2003). A (re)utilização da Prefixação em Mia Couto. *Revista de Letras da Universidade de Aveiro*, nº 19-20, 2002-2003, 85-98.
- Timbane, A. A. (2018). A Cultura Moçambicana Camufulada no “o Fio das Missangas” de Mia Couto. Em C. M. Fargetti (ed). *Léxico em Pesquisa no Brasil*, pp.20-38. São Paulo: Letraria.
- 金七紀男. (2003). 『ポルトガル史 (増補版)』. 彩流社
- 船田クラーセンさやか. (2007). 『モザンビーク解放闘争史—「統一」と「分裂」の起源を求めて』. 御茶の水書房.
- ミア・コウト. (2025). 『夢遊の大地』 (伊藤秋仁訳). 国書刊行会.
- 水谷章. (2017). 『モザンビークの誕生—サハラ以南アフリカの実験』. 花伝社
- 鳥越慎太郎. (2024). 「モザンビークの2018年全国市議会選挙と2019年総選挙の比較考察」. 『スワヒリ&アフリカ研究 第35号』, 265-284.